

カピバラ

世界一大きなネズミ?
いえ、
世界一可愛いネズミです!



西

海市にある長崎バイオパークは「カピバラの聖地」と呼ばれている。カピバラを飼育している動物園は数あれど、自然の中でこれほどまでに触れ合えるのは、全国でもここだけ。

カピバラは世界一大きなネズミといわれ、大きなものは七十キロにもなるという。しかし、その大きさをネズミの仲間といった感じはせず、動きもどこか人間的。のんびりと過ごすカピバラたちの周りは、ほんわかとした雰囲気にも包まれ、愛くるしい表情に癒される。長崎バイオパークには、このカピバラと会うためだけに遠方から足を運ぶ人や、中には一日中、カピバラと過ごして帰る人もいるという。

おっとりして見えるカピバラだが、飼育員の土田円佳さんは、実際はなかなかの運動神経の持ち主だと教えてくれた。「全力で走ると、時速



飼育員の土田さんになでられて、気持ち良さそう!

三十四〜四十キロのスピードが出ます。立派な水かきがあり、泳ぎも得意なんですよ」。

カピバラの担当になって半年という土田さんには、驚いたことがあるという。「午後になると、あるメスが『キョルキョル』と鳴きます。その合図を聞くと、バラバラに過ごしていたカピバラたちがゾロゾロと歩き出し、ホスの所へ挨拶に行くんです。彼らは集団で行動しますが、これにはビックリしましたね」。

元々南米生まれのカピバラは寒さ

に弱い。バイオパークには冬の期間、露天風呂とストープが登場し、カピバラたちはそこで暖を取る。夏に泳いだ後、スイカを食べる姿も可愛いですが、トロンとした目で湯に浸かり、ストープの前でじっと背中を温める姿も愛らしい。

カピバラは、人になでられるのが大好きだという。優しくなると、眠ってしまうこともあるそうで、マッサージするように強く触ると、気持ちよさそうにお腹を見せて寝転んでみせる。土田さんは、こうした「触れ合い」こそバイオパークの魅力だと話す。「カピバラの毛はフワフワではありません。意外にもホウキやタワシのようにゴワゴワした感触をしています。そうしたことは、触れ合って初めて分かること。ぜひみなさんに、なでていただきたいですね」。



長崎バイオパークは、
私たちに
そう教えてくれている。



人間と動物は
共存できる。



長 崎バイオパークには、約二百種・二千点の動物と、約一千種・三万点の植物が展示されている。動物たちは自然の中で、まるでここが自分たちの故郷であるかのように暮らしており、動物を見るときよりも、来園者である私たちが動物たちの世界にお邪魔する、といった感覚を覚える。カンガルーやマールをなで、リスザルたちは肩に乗ってくる。長崎バイオパークは日本一、動物たちと触れ合える場所である。



Nagasaki BIO PARK

